

ぎかい



2020.10.16

小国町議会だより 第**146**号



表紙関連記事は16ページ

令和元年度決算認定

主な内容

- 2～3ページ
9月定例会
- 4～7ページ
決算審査
- 8～13ページ
一般質問6名登壇

総額3億7376万円を可決 75億9074万円に増額



8月豪雨により町内各地に災害が発生した(市野沢地区)

補正予算主要内容

◆一般会計専決処分2件

(大雨による災害復旧のための設計・積算)

7月26日～29日分……………450万円

8月7日分……………2907万円

◆各課補正予算

(医療従事者への慰労金、コロナ渦における新生活様式に対応するため)

- | | | | |
|-----------|----------|-------|--------|
| ●一般会計 | 3億4019万円 | ●訪問看護 | 85万円 |
| ●介護保険 | 1597万円 | ●病院事業 | 1168万円 |
| ●老人保健施設事業 | 259万円 | | |

条例の制定

- 小国町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例
- 小国町営住宅条例の一部を改正する条例
幸町団地が11棟から10棟になりました。

人事案件

小国町教育委員会委員

佐藤 靖彦 氏(小国町大字玉川)

任期 令和2年10月1日～令和6年9月30日

定例会の あらまし

- 9月定例会が9月2日から11日までの7日間の日程で行われました。
- 専決処分2件 補正予算5件 条例案2件の提案がありました。
- また令和元年度会計決算12件が一括上程され決算特別委員会に付託されました。
- 6人の議員が一般質問を行いました。
- 最終日に上程された全議案を可決し、各会計決算12件についても全員が賛成し認定しました。
- 意見書提出 ●人事案件

9月定例会

一般会計補正予算

一般会計予算総額は

一般会計 主要内容

新型コロナウイルス感染症に対応、
鳥獣被害対策や大雨による災害復旧の
予算が組まれた。

総務費

ふるさと納税災害支援代理受付（熊本県小国町災害支援）
住民基本台帳ネットワークシステム改修事業委託、総合行政システム改修業務委託等

民生費

新型コロナウイルス感染症対応従事者への慰労金・慰労金給付事業

農林水産費

特定鳥獣被害防止対策協議会補助金、電気柵補助金、林業振興費、
林野測量・調査委託料、施設維持管理委託料

商工費

梅花皮荘自動ドア化工事、飯豊山荘脱衣室・道の駅ぶな茶屋厨房エアコン設置工事、飯豊温泉引湯管土砂等撤去工事、横根スキー場防風ネット整備工事、道の駅直売所Wi-Fi環境整備工事、その他新型コロナウイルス感染症対策費、工業用水道利用確保助成

土木費

町営住宅幸町解体工事、道路新設改良費支障物件移転補償

消防費

庁舎Wi-Fi環境整備工事

教育費

小中学校光熱水費（新型コロナウイルス感染症対策による授業時間延長見込み）叶水小中学校教室網戸の設置工事

災害復旧

農業施設災害復旧工事、林業施設災害復旧工事、公共土木施設災害復旧工事



8月豪雨により町内各地に災害が発生した（百子沢地区（左） 黒沢地区（右））

決算審査特別委員会質疑応答 令和元年度決算を 全会一致で認定!



決算審査特別委員会質疑の様子

高野議長、小関監査委員を除く8名の議員で決算審査特別委員会が行われた。議員それぞれの知見の中で、予算の執行と成果について多くの質疑応答が行われた。
※主な内容



アスモで開催されたビジネスプランコンテスト

総合政策課

Q「ビジネスプランコンテスト」へのその後の対応は。

A 事業化に結び付けるためのサポートとして、委託している事業者から参加者に対してフォローしてもらっている。

実際に、ふるさと納税返礼品になったものもある。

高校生のプランはアイデア部門として広く募ったもの。事業化までは想定していないが、プランの実現に向けたアドバイスは行った。

Q コミュニティ機能維持に向けた共同調査研究の報告書の検証は。

A 人口減少は急激に進んでいる。コミュニティの組織が弱体化していく中で改めて地域の組織運営の在り方を見直していく。今後は、既存の組織を使いモデルケースを検討していく。

Q 「地域資源域学連携事業」の効果は。

A 早稲田大の学生を中心に農泊について検討してもらった。新潟大学は樽口、玉川での料理交流を行った。山形大学は小国の食材をPRするイベントを行った。

今後は、これまでを検証し、オンラインでの実施を含め検討する。



樽口地区での学生作業風景

町民税務課

Q「白い森ブランドPRご当地ナンバー交付事業」で原動機付自転車のナンバープレートを100枚作成したが交付状況は。

A 昨年10月から交付を

始め元年度は8枚、2年度は7月現在で13枚を交付している。年間30枚程度を想定しており、3～5年で100枚を交付する予定である。



Q 町の土地の評価額は3年に一度の評価替えであるが結果はどうだったのか。

A 評価替えのために実施した鑑定評価額の速報値として、基準宅地については、平成30年度の価値に比べて6.85%マイナスになっている。

このため毎年7月1日時点の地価の下落状況を把握し固定資産税の評価に反映させる時点修正を行っているが、毎年、地価は下がっている状況にある。

Q 生ごみ対策事業（肥料化）は10年間事業を行ってどのような成果が得られたのか。

A 10地区46世帯で実施した。農家の方々にも協力してもらい農作物を給食への食材提供やアスモ等で販売した。元年度に終了したが、今後どのような方法で再開できるのかいろいろなご意見を聞きながら判断したい。

産業振興課

Q 多面的機能支払制度事業について21団体実

施していたものが17団体に減っている主な原因は。

A 非農家が共同活動に参加できない組織が多くなってきたことがあげられる。特に事務の煩雑さによる担い手不足があげられる。数年前に町内組織の事務を一括受託できる組織を模索したが、様々な理由で組織化できなかった。そのため、役場OBを直接雇用して、全組織に対する事務的な指導を行なっている。現在の状況ではこの体制がベターだと考えている。

Q 高収入品目植樹植栽事業は、ビジネスプランコンテストでも入賞した事業でもあるが執行率が低いのはなぜか。

A 対象となる山林の所有者を事前調査しながら予算を計上したが、実際に事業に参加した方が少なかった。また、苗木の確保も十分でなかった。今後の展開方法を検討していきたい。

Q 森林環境譲与税を活用した新たな森林経営管理制度推進事業における調査の進捗状況は。



期待されるクロモジの栽培

A 元年度は森林所有者と林齢等の調査を行い、整備が必要な森林について、将来に向けてどのような施策が展開できるかを再度方向性を検討した。本格的な制度の運用は来年度からと見込まれる。5ヘクタール未満の山林所有者が8割であるという現状を踏まえながら、当町にあつた事業展開が可能となるよう検討していく。

地域整備課

Q 今冬は少雪のために除雪車の稼働が少なかった。待機している作業者の手当見直しやオペレーター養成が必要ではないか。

A 現在は待機補償として、情報連絡員1名、除雪オペレーター2名

分を過去の国土交通省基準を参考に計上している。今後、今冬の県及び各市町村の待機補償の考え方を参考にすると。オペレーター養成も今後検討する。



安定した除雪体制の確保

Q 河川清掃作業協力が高齢化のためボランティア動員が困難になってきているのでは。

A 参加者の高齢化は認識している。



高齢化が危惧される河川清掃

参加者には危険な河川に入つての作業を行わないよう、主に土手の草刈り、ゴミ拾い等をお願いしている。河床の清掃は、河川管理者に対し、現状を伝えながらお願いをしている。

教育委員会

Q 文化財の保存活動に係る経費は充足しているのか。

A 限られた予算の範囲で取組んでいる。今後は、更に保存・保護活動を推進していく。

Q 教員養成費の活用は、2年連続で執行率がゼロとなっているが今後の対策は。

A 今後は町広報紙、ホームページで周知するとともに、高校への周知活動を進めていく。



指定文化財の水芭蕉群生地(小渡地区)

健康福祉課

Q 「生活管理指導員派遣事業」とは。

A 支援が必要な方にヘルパーを派遣する事業であり、社会福祉協議会に委託されている。

現在は、介護保険制度で訪問介護サービスが広く利用できるため利用者が少ないものである。

Q 健康福祉課の「健康増進事業」の実施状況から、検診受診者を増やす取り組みは。

A 毎年3月に全世帯対象に申込書を送付している。医療機関を受診されている方など、健康管理もそれぞれであり受診者の増加は難しい。

Q 「介護職なかま創出事業」並びに「介護資格取得支援事業」の状況は。

A 昨年度は小国高校生の資格取得に繋がった。今年度は7名の方が受講している。介護資格取得支援は、民間の講座を受講された方への助成であるため、今後も継続する。

町立病院

Q 病院事業会計が昨年に比べて当年度純損失8034万円となっている。これは昨年度に比べ3倍強であるがその理由はなぜか。

A 入院患者や外来患者数など減ったことが主な要因である。

Q 病院改革の議論は進んでいるのか。

A 地域医療のあるべき姿を求めて議論している。



改革が求められる小国町立病院

決算審査特別委員会報告書【要旨】

9月2日、本委員会に付託された令和元年度小国町各会計決算について3日、4日及び7日の3日間にわたり、関係課長等の出席を求め審査を行った。令和元年度の税収は、町内景気の停滞による個人町民税の減少に加え、建設業等の業績が大幅に落ち込んだことから、全体の税収では昨年度を下回ることとなった。特に町税全体の収納率が低下しており、収納対策の強化が急務となっている。

一方、コロナ禍の収束が不透明な中、「新たな生活様式」に対応した地域経済や日常生活の在り方を模索することが喫緊の課題となっている。

令和元年度各会計決算12件については、次の意見を付し認定すべきものと決したので、小国町議会会議規則第41条の規定により報告する。

1 観光情報の発信基地である「道の駅白い森おくに」の機能拡充事業によりグランドオープンした農産物・物産特産品直売所の利用者・売上額の実績は着実に伸びてきている。指定管理者や関係団体との連携のもと誘客が期待される賑わいづくりを創出するため、今後、道の駅の施設相互の機能の向上を期待する。

2 「保小中高一貫教育支援事業」、「地域との協働による高校改革推進事業」などにより教育の環境整備が図られている。更に県立小国高等学校の魅力化づくりに対する支援が求められている。将来にわたって町民が安心して住み続けられる活力あるまちづくりを目指し、地域に根ざした人材の育成に向けた取り組みを強く望む。

3 ふるさと納税は、掲載サイトを増加するなどの手法により寄付件数6、535件、寄付額193、120千円とともに過去最高を記録した。今後、返礼品となる特産品の開発に努め、まちづくり事業の貴重な財源確保に取り組まれない。

まちづくり 過去の文献参考に

スローライフ・スローフードのまちづくり
職員の意識改革、地域運営組織づくり

こばやし よしみ
小林 嘉 議員



都市から地方への動き

小林 コロナ禍、都市集中緩和に向けた兆しに「小国町の受け入れ態勢の検討」を急ぐべき。

暮らしの価値を高める

町長 ポストコロナ社会に向け、今、何をすべきか考え、農山村・中山間地域で受け継がれてきた暮らしの価値を高め、社会インフラ水準を確保していく。

三つの文献、活用を

小林 「小国町のあるべき姿」をまとめた計画書、報告書、研究書を再度活用すべき。

●五感農業の里づくり

町長 五感農業の里づくり「人間の視覚、味覚、嗅覚、触覚、聴覚に触れる感性あふれるモノ

づくりの里」は、今、私が取り組む「白い森まるごとブランド構想」そのもの。

長い年月の積み重ねを活かして、米沢牛産地形成、やまがた地鶏、菌床工場、わらび粉製造、地域総合商社の設立による販売戦略の展開等、当時の施策がようやく整いつつある。

●小国町行政診断報告書

町長 平成15年度行政改革大綱に基づき、新たな行政課題・住民ニーズに対応するため、事務事業及び行政組織・機構など、行政経営全般について分析を行ったもの。

求められる行政ニーズや課題は時代と共に多様化・個別化しており、引き続き行政改革を進めている。

●農山村地域におけるムラ機能の維持・保全に関する研究

町長 平成19年3月ムラ機能の自立的な維持・活性化を基盤とし新たなまちづくりの方向をまとめたもの。

昨年度、「誰がどのように、地域の魅力を作り上げていくか」仕組みと手法をまとめた。まちづくりの理念は現在に通ずるものがあり、住みやすい町を作るため過去の資料も活用していく。



都市生活からスローライフへ



小国高校存続を！

地域政策と捉え、強い支援を望む

間宮 尚江 議員

小国高校へのICT教育支援を

間宮 小国高校は小規模校としての特性を活かし、その取り組みは町内外から高い評価を得ている。

存続に向けては、地域政策の観点からも強化すべきである。

本町の保小中高一貫教育の柱となる「白い森学習の国際・情報」というスクールポリシーの観点におけるICT教育への支援策を講じていくべきではないか。高校の魅力ある学びは、地元に住みたい若者の定着に繋がるものと考え、町長の考えは。

存続は町の重要事業要望の位置付け

町長 県並びに県教育委員会に対し存続を要望している。ICT教育

育の環境整備は県の対応であるがソフト面の支援は、今後検討していく。

存続に向けた取り組みは今後とも「小国高校を支援する会」との連携で関係機関に働きかけをしていきたい。

高校生の「地域留学」で将来的関係人口の創出を

教育長 内閣府の「高校生の地域留学推進のための高校魅力化推進事業」の採択を受け、全国から小国高校に生徒が集まる事業に取り組む。

ICTハード面での支援では県立の学校であり、町が直接機器整備は想定していない。「小国高校を支援する会」で一部端末機器の貸し出しを行っている。小国高校では来年度からリリースによる生徒一

人一台の端末機の整備に向けて検討中と聞いている。

今後においても、地域政策としての各種教育支援策や現在取り組み各種教育制度の効果的運用を手厚く支援していく。

自治体の将来的な経済効果を考える

間宮 高校存続の可否は、将来における自治体の人口減の問題にもなる。それが経済的損失にもなりかねない。その為にも、インフラ整備にも特化された学びの保障を期待する。



地域政策としてICT教育の強化を

コロナウイルス感染の対応で 政策の見直しはあるのか

今 康 成 議員



コロナ禍において観光政策に見直しはあるか

今 新型コロナウイルス感染の終息は見えていない。

対策は持続しなければいけない可能性があり、財源の確保も必要となる。

町では政策の骨格に観光を据えるとしている。新しい生活様式が定着し、交流人口の減少が見込まれるとすれば影響は大きい。

観光政策の持続性・妥当性について財政面も踏まえ検証は行っているのか。政策スケジュールの見直しをすることはあるのか。

感染症対策と政策の確保については一線を画して対処していく

町長 コロナ禍の現在、収束の目途が不透明な状態で、ポストコロナ

の社会像を描けないというのが現状だ。

「新しい生活様式」の促進が国の方針になっている中で、「平時」の発想で地域経営をすべきではない。

規制と制限が続く厳しい環境下で断念せざるを得なかった事業やイベントも数多く、観光交流施設の休業で大きな打撃を受けた。

一方、国では観光キャンペーンなど消費喚起策を展開している。

町でも県と連携した補助事業を実施し、受け入れ環境づくりを支援しながら近隣地域から誘客を図っていききたい。

この事態は全世界が直面している危機であるが、感染症対策と中長期の町づくり政策の確保については一線を画して対処する。

道の駅再整備に影響は

今 観光面、特に道の駅周辺の再整備計画は当初の予定通りに進めるのか。

感染症対策と観光施策は並行して進める



観光施策はコロナ対策と並行して行う

町長 感染症対策が最優先と考えているが、所信表明で述べた施策を並行して進めていくことも肝要だ。

観光については、町の将来の産業として育てていくことが進むべき道であるという考えは変わらない。



◆中央児童室の開始時刻は利用者の声を反映させるべき

◆空白地有償運送で交通弱者を救え

いとう ひろ ゆき
伊藤 弘行 議員

中央児童室設置以来、変えることができなかった開始時刻が町民の声で変えることができました。

◆中央児童室の開始時刻について

開始時刻を早めるべき

伊藤 ホームページから募集要項を確認すると、開始時刻が8時半からとなっている。町内企業の就業時間を鑑みると遅い。開始時刻の見直しが必要では。

6月より時間を早めた

町長 3月に同じ質問をいただいた。ホームページの変更が間に合っていないかったようであるが、その後6月から開始時刻を30分早め8時からとした。

変更した背景は

伊藤 どういう背景で変更したのか。



小国町HPも変更済み

健康福祉課長 アンケートの中に要望が含まれていた。

伊藤 今後も要望を取り入れ選んでもらえる町づくりをしていただきたい。

◆交通弱者の対策について

バス本数を増やすのではなく、必要な時に送迎してもらえる仕組み（空白地有償運送）をつくるべき

伊藤 現在の公共交通網では交通弱者が生まれている。費用面も考えると、空白地有償運送の制度をつくりそれぞれの地域力で実施すべきではないか。

ニーズの調査が必要

町長 町民からの声があることは認識している。きちんとしたニーズをとらえたうえで、検討したい。

確実に進めてほしい

伊藤 調査から結構だが、いつまでに実施するというのが強いリーダーシップで地域に力があるうちに実現することを期待する。何も進んでいなければまた同じ質問をさせていただきます。一年間何もしなかったというのではないようにお願いする。



空白地有償運送のイメージ図

◆積極的なしごとづくりを望む！ ◆命を守る防災無線に！

～書面ではお伝え出来ない事もあります、ぜひ議会中継をご覧ください～

わた なべ しげ のぶ
渡 邊 重 信 議員



◆産業でもある建設業の仕事安定させるべき

渡邊 少雪やコロナウイルス感染症の影響で町内建設業は大変な思いをしている小国町として公共事業の発注をどのように考えているか。

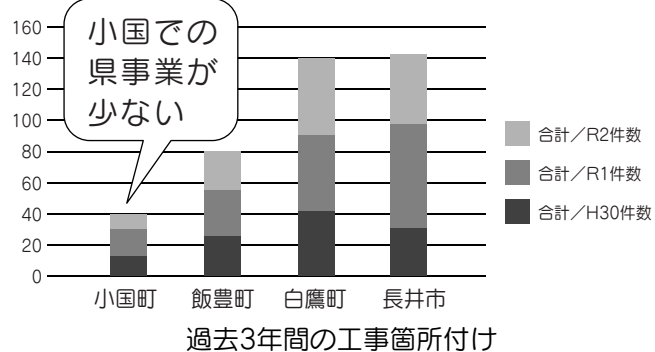
町長 今後も予算確保と地域、業界団体との情報交換と情報収集につとめ、ストック点検に努める。

渡邊 発注基準を変えたのはなぜか。

副町長 町内に大きな事業がないため、各業者に等しく受注できる環境を整えるため基準を見直した。必要に応じて変更している。

渡邊 町長の二期目の施策実現の為、県・国の太いパイプを使い、県単独事業を取りに行く

努力が必要ではないか。



町長 補助の取れるものは積極的に取りに行き、ハード面も強化していく。

渡邊 小国町で安心・安全なまちづくり、仕事の創出を望む。

町長 安全で安心な医療や教育も充実した、選ばれる町を目指す。

◆小国町の防災行政無線の使い方は



防災無線
命を守る放送を望む

渡邊 この度の7月・8月の豪雨災害時の防災無線はどのように活用したのか。

町長 規定に基づき緊急放送を適時にお届けした。荒川の水位が氾濫水位を超えたため北部・中庭地区の方々が避難できるように、その後は旧中庭小学校・旧北部小中学校に避難所の開設と自主避難を呼びかけ、役場を自主避難場所として開放し土砂災害と河川の増水への警戒を呼びかけた。

渡邊 確かな情報を常に発信する呼び掛けが命を守る事につながる。

町長 町民全員が聞ける状況にない可能性もあり消防団、自主防災組織の声掛けが最も有効と考える。今後も自主防災組織化を進め、地域に密着した情報発信を徹底していく。

渡邊 もう一度防災行政無線の使い方の周知徹底を望む。

◀防災ラジオの電源はきらないで



防災無線室で
地域ごとに情報発信▶



コロナ禍によるピンチをチャンスにかえる施策を

しば た しん や
柴田 伸也 議員

町内の経済が回復するための手立ては

柴田 コロナ禍の影響で本町の経済は、経験のない打撃を受け続けている。その間、国県町からの給付金や支援等を受け、何とか持ちこたえている。しかし収束が見えず先行きを不安視する事業主や町民の方も多い。コロナ禍が収束することを願い、その後の町を見据えて経済が少しでも回復するため着実に効果があがる手を打つべきではないか。

緊急経済対策を講じてきた

町長 町民の命と健康を守ることを最優先に感染防止対策の徹底と経済対策を講じてきた。町内消費喚起を図るための「応援クーポン券」の配布や、感染対策に

おける事業継続、雇用推進対策など「新しい生活様式」へ対応する地域経済対策を実施している。

町内への移住策を検討しては

柴田 コロナ禍の影響で地方への移住を検討していると聞く中、本町の環境や支援事業等をPRし、移住を検討してもらおうチャンスだと考えられないか。

もう少し分析が必要

町長 収束の目途が不透明な状態で、ポストコロナ社会の姿を描けない状況だが、県の移住支援金制度等や町の就業目的移住者支援金等をホームページやSNSなどを有効に活用して情報発信に努める。

柴田 感染者が比較的に少ない東北6県や新潟県などから誘客を促す取り組みはできないか。



小国でワーケーション

町長 どのようにアプローチをするか問題だが、地道に小国の良さをPRして誘客するところが必要だと思う。



小国中学校生徒会のポスター

小国町議会政策提言

「本議会は総合戦略におけるまちづくりの指針に関連する9項目と新型コロナウイルス感染症防止と経済再興に向けた支援対策4項目について政策提言を行うものである。」

提言1 白い森の国を担う「人」づくり

- 未来を創る子どもたちの育成
- 移住定住に関する取り組みについて
- 保育行政に関する取り組みについて
- 閉校校舎の有効活用について

提言2 白い森の魅力を磨く「環境」づくり

- 小国町猟友会への支援について
- 有害鳥獣防止対策について

提言3 白い森を舞台とする生き生きとした「暮らし」づくり

- 道の駅「白い森おぐに」賑わいづくりについて
- 民有林における森林資源の有効活用について
- 地域運営に関する取り組み

提言4 新型コロナウイルス感染症防止対策について

- 感染防止対策について
- 情報発信について
- 経済対策について
- 教育対策について

**政策提言の詳しい内容は
次号147号で
ご紹介いたします！**



委員会活動概要

総務厚生常任委員会

- 保育行政に関する取り組みについて
出生時の推移から今後の保育行政の
方向性の説明を受けた。
- 新型コロナウイルス感染症防止対策
について

文教産建常任委員会

- (株)小国いきいき街づくり公社
経営健全化方針について
産業振興課より経営状況の説明を受
けた。
- 豪雨被害について
地域整備課から被害の状況説明を受
けた。
- 新型コロナウイルス感染症経済対策
について



公立保育園

広聴広報常任委員会

- 議会だより146号の編集について
- 議会議員と語る会及び高校生との
意見交換会の開催について



議会だより編集中心

今康成議員
補選において当選
文教産建常任委員会に
所属

おらも
おぐに町民

おぐにが
大好きです。



プロフィール

名前 (住所)

藤田 鉄也 (小玉川)

出身地 東京都

勤務先

(株)コメリ

農業アドバイザー

柴田 初めて小玉川に
来た時の感想は？

藤田 13 年前に来まし
たが、当初は携帯も通
じずビックリしました。
でも、緑が綺麗で空気
も澄んでいて、時間がゆ
っくり流れていると感
じました。

柴田 言葉や方言で困
ったことは？

藤田 仕事での話ですが、
冬に「スノーブラシは」
と言われてデッキブラシ
を持って行ったり、「ブ
ッシュの刃は」と聞かれ
て「？」となったり、「ま
んずねまれっちゃ」と言
われた時は、とりあえず
謝ったことも…。
思い出すと笑ってしま
いますね。

柴田 現在頑張ってい

る事は？

藤田 4 人の子育てを
がんばっています。

長女の吹奏楽、長男
のスポ少野球の応援を
頑張っています。次男も
野球をしたいと言っ
ているのでサポートをし
ながら三男（年少）の
成長も楽しみにしてい
ます。

柴田 農業アドバイザー
ーの仕事の内容は？

藤田 仕事場は町内や



稲の生育状況をチェック

新潟県の隣町等で、農作
物の生育状況や、病気
等が発生する前にいち早
く対応できるように、
農業用品や必要と思わ
れる商品を事前に準備
等する、コメリの営業マ
ン的な仕事です。

柴田 今後の目標は？

藤田 今の仕事が好き
なので、農業を営んでい
る方々の困り事を解決で
きるよう、会社を通じて
さらに貢献できたらと
思っています。

柴田 ありがとうございます
でした。子育てを楽
しみながら、仕事も頑
張って下さいね。

編集後記

収束が見えないコロナ禍
にあって、日々大変な状況
が続いています。さらには
7月・8月の豪雨災害そし
て猛暑。先人達は幾度とな
く立ちは大なる困難を乗り
越えてきました。

「私達も必ず乗り越えら
れる」そう信じて新しい生
活様式を取り入れながら、
頑張りましょう。

議会も町民の皆さんが安
心安全に暮らせるよう取り
組んで参ります。

柴田 (記)

発行責任者

議長 高野 健人

広聴広報常任委員会

委員長 小関 和好

副委員長 伊藤 弘行

委員 渡邊 重信

委員 柴田 伸也

委員 間宮 尚江

委員 小林 嘉